KITA NO MACHI NO NEWS LETTER

キタのまちのニュースレター

No.4 2022 春-夏号

大淀のフラ受講生によるステージ

『マナビバ フラ カンファレンス』とは?

『マナビバ』というイベントは、多様な視点で地域コミュニティへの交流や発見、そのきっかけづくりを目指すイベントです。今回はハワイ文化の『フラ』と、日本文化の『浪花百景』(ニュースレター No.3/P2で詳報しています)による異色のコラボが行われました。一見すると共通点がない2つですが、実はどちらも〝自分が暮らしている地域に関心を向ける〟という部分で繋がっていました。

そもそもみなさんは『フラ』とは何かをご存知でしょうか。実は『フラ』とはハワイ語で〝踊り(ハワイアンダンス)〟のことを指しています。だから私たちがよく口にする『フラダンス』は、〝ダンス・ダンス〟という意味と同じだそうです(「ダンス」を付記する場合もあります)。

2日間行われた『マナビバ』では、ハワイの歴史講座や『フラ』に使うシュシュ作りを通して、貴重なハワイ文化に触れることができます。また、ステージのダンスパフォーマンスでは曲ごとに解説が付き、踊りや歌に込めた意味が初めての人でもわかるように語られました。そうしてハワイ文化は自然や人に対する気持ちを大切にしており、『フラ』は自分が過ごす環境への感謝や祈りを表現していることが伝わります。

ハワイの歴史を学ぶワークショップの様子

会場では多種多様なレイが飾られました

フラには欠かせない手作りシュシュの体験も

最後は会場全体で「ハワイアロハ」を歌いました

同日に展示されていた『浪花百景』は、江戸後期の大阪の風景を描いた作品。こちらは原画を拡大して大きなタペストリーの形で展示しており、細かな部分まで見やすくなっていました。描かれた場所を見て、現在と異なる風景や変わっていない場所を発見すると、自然とその土地への愛着や興味が湧いてきます。実際に訪れた方々も食い入るように絵を眺めていました。

なぜこの風景が描かれたのか、なぜこのような振り付けなのか、そういった疑問を歴史から学び体験することで、〝自分が暮らす身近な場所への関心〟という共通点を発見することができたのではないでしょうか。異分野の交流から互いの共通点を見つけることができれば、新たな興味や発見に繋がるかもしれません。皆様もそんなイベントへぜひご参加ください。

大淀コミュニティセンターでは、フラの講習会が実施されております。どなたでもお気軽に参加できますので、詳細が気になる方は右記までご連絡、またはホームページをご確認ください。

■大淀コミュニティセンター　フラダンス講習会
令和4年度受講生募集中!
受付:大淀コミュニティセンター事務所窓口、
お電話やFAXでも受付いたします。
TEL:06-6372-0213　FAX:06-6371-0107

扇町マナビバの試み

大淀&北区民センター便り 子どもが楽しむ絵本のひろば

キタのまちのニュースレター編集室

3月20日、大淀コミュニティセンターで「絵本ひろば」が開催されました。新型コロナウイルス感染症拡大の影響で残念ながら2年連続中止という状況が続いていましたが、今年度は事前申込制・規模縮小という形ではありますが無事開催することができました。

会場となる大淀コミュニティセンターのホールには100冊以上の絵本が展示され、中には普段あまり目にすることのない大きな絵本や外国語の絵本もあります。参加して下さった子ども達は、皆たくさんの絵本に囲まれた空間の中を自由に歩き回っていました。きっと自分のお気に入りの一冊に出会うことができたのではないでしょうか？

当日は同時開催でエプロンシアターやベビーマッサージ講座も行われ、たくさんの方々に参加して頂きました。ご来場頂いた皆様、そして開催に尽力して頂いた皆様、ありがとうございました。

大淀コミュニティセンターでは英会話教室やキッズダンス教室など、子どもたちが参加できる催しの場としてもたくさん利用して頂いています。新年度、新しいことを始めてみたい！ そんな思いのお手伝いがきっとできると思いますので、ぜひ皆様大淀コミュニティセンターに一度お立ち寄り下さい♪

ツキイチ屋台から

私有地を上手に使う

建築家・ツキイチ屋台女将　岸上 純子

前号では、笹尾和宏さんの著書を紹介し「私的に自由にまちを使う―PUBLIC HACK」について書きましたが、実践された方はいらっしゃるでしょうか？ まち（公共）を私的に使うのは「ハードルが高いわ～」という人も多かったかもしれません。なので、今回は「私有地」を上手に使うことについて書きたいと思います。

じつは私が行っている「ツキイチ屋台」、これは私有地の活用です。写真を見ただけでは「道（公共）を勝手に使っている」ように見えるかもしれませんが、この道は私道なんです。わが家はこの道の中心線までを所有しています。とはいえ、いろんな人々が行き来する生活動線でもあり、常に道を塞ぐような使い方はできません。しかしここは商店街でもあり「常時はみ出ない物なら OK」という暗黙のルールが昔からあります。そんなことから「使わない手はない！」と、ツキイチ屋台をはじめたのでした。

じゃあ、私もやってみたいけど私道ってそんなにあるの？と問われると、そう多くはありません。けれど、規模の大きなマンションなどに設けられている一般に開かれている私有地があります。「公開空地」です。

ご存じでしょうか？　これは「こうかいあきち」ではなく「こうかいくうち」と読み、高層ビルやタワーマンションの足元にたくさんの樹木が植えられたオープンスペース。ありますよね？　みなさんの近所にもそういう場所。そう、公開空地は「敷地の一部を近隣住民などに開放するから、その代わりに容積率の割増しや高さ制限の緩和を認めてね」というものです。

従って、維持管理は区分所有者全員（管理組合等）が行わなければならない私有地のままですが、なかなか自由に使っていいとは感じにくい場所となっています。

でもね、大阪市は公開空地の占用について営利を目的としないイベント、リクリエーション活動など、地域の活性化に寄与する行為（町会の催し、ミニコンサートなど）等が、市長の承認を得ればできるようになっているんです。自分のマンションの足元でミニコンサートとかあれば楽しいかもしれませんよね？　そんなイベントを企画するのはさすがに大変、、、ということであれば私に相談頂いてもいいですし（笑）、もっと簡単に「まずはご自身のマンションの公開空地」をご近所さんを誘ってハックしてみてはいかがでしょうか？

大阪市HP　公開空地の占用について

キタ歩き日本旅

佐賀県の巻

「大阪駅前ビル」には、47都道府県のうち約半数にもなる日本全国の「道府県事務所」がオフィスを構えています。少し大げさに表現すると『日本が大阪駅前ビルに勢ぞろい！』の風情です。SNS万能の時代ですが、全国各地の旅や物産の様子が「人肌感覚」で知ることができます。この連載は、旅する感覚で北区の大阪駅前ビルを訪ね教えていただいた情報です。大阪駅前ビルの歴史も魅力的！「わが町の旅」としていかがでしょうか。

肥後名護屋城図屏風（提供/佐賀県立名護屋城博物館）

黄金の茶室（提供/佐賀県）

シーボルトの湯（提供/佐賀県観光連盟）

武雄温泉元湯（提供/武雄市観光協会）

大阪城を探訪してから「佐賀県の旅はいかがですか？」と、佐賀県 関西・中京事務所の東さん。その心は……？

豊臣秀吉が、文禄・慶長の役（壬辰・丁酉倭乱1592～ 98）の拠点として名護屋城を築城し、全国諸大名の陣屋とともに人口20万人を超える日本有数の一大都市を誕生させたという「歴史の旅」……大阪と佐賀は秀吉つながりの「ご縁が深い」。唐津市の佐賀県立名護屋城博物館では、秀吉が京都の御所や大坂城などで使用し、名護屋城へも運ばせて茶会や外国使節の応接に使用した「黄金の茶室」が復元され、3月27日から公開されています。また、名護屋城を中心とした半径約3kmの圏内には、約160箇所もの大名の陣跡が確認されており、名護屋城跡の他23箇所の陣跡が国の特別史跡に指定されています。この「歴史の旅」のスケールは壮大です。

いきなり大阪との歴史物語が飛び出した。これぞまさに「キタ歩き日本旅！」。今秋9月23日には西九州新幹線が開業の予定。新幹線「かもめ」が武雄温泉駅・嬉野温泉駅に登場し、佐賀への旅がより身近になりそうだ。

新たに新幹線駅が誕生する嬉野市の特産品と言えば、「うれしの茶」が有名です。秀吉が愛した「茶の湯」に直接の結びつきはないようですが、約580年前から栽培が始まったという「うれしの茶」は、全国茶品評会で日本一を受賞するなど品質は折り紙付き！　街中には「うれしの茶交流館 チャオシル」なんて施設もあるくらいで、お気に入りの焼き物で「自分好みのティータイム」が素敵です。

まち歩きで疲れたらやっぱり温泉。当時の「大坂」にも、遠からぬご縁のシーボルトの名を冠した「シーボルトの湯」は、嬉野温泉の公衆浴場で綺麗でオシャレな施設です。さらに……ちょっと驚きですが武雄温泉には、秀吉が記した朱印状「湯泉掟書（1592／文禄元年）」が現存し、「秀吉に愛された名湯」として親しまれています。ここの「元湯」は木造の共同浴場として日本最古の歴史を誇ります。さらに忘れてはならないことは、嬉野温泉は〝美肌の湯〟、武雄温泉は〝美人の湯〟と呼ばれており、ともに肌にいい泉質なんですよ！

大阪から佐賀は考えていたよりも近く、秀吉（大阪）つながりの物語が興味を引いた。山海の美味も「お待ちしています」とのことだった。

佐賀県 関西・中京事務所／北区梅田1-3-1 大阪駅前第一ビル 9階　☎06-6344-8031〈開館状況は電話またはHPで事前にご確認ください〉

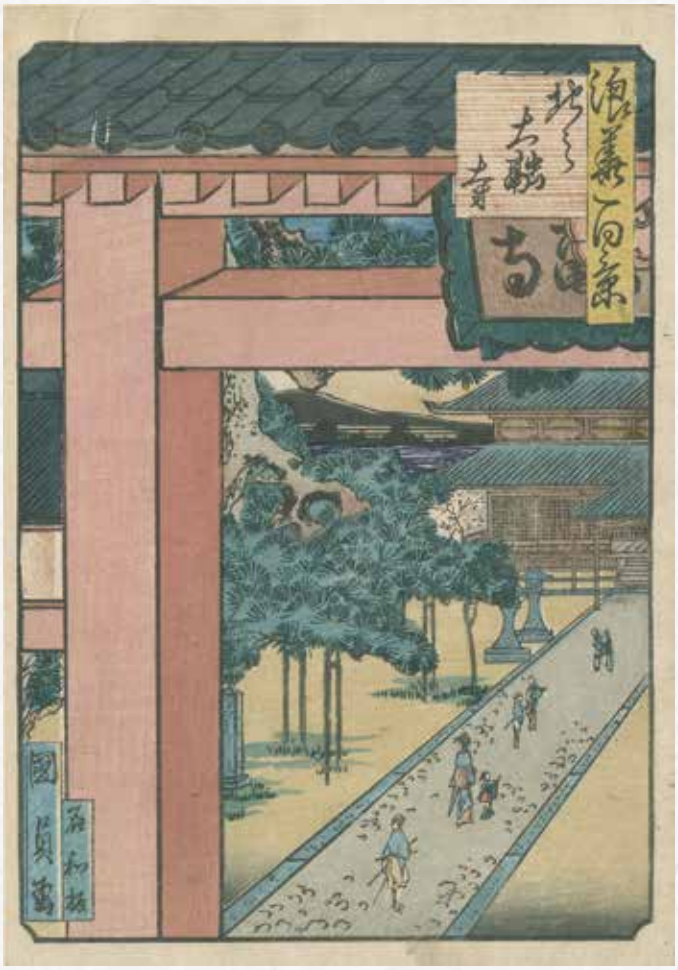
浪花百景歳時記

藤波麗しく咲き乱れた名刹

「北之大融寺」歌川国員 画

太融寺は「藤の花」でも知られた名刹である。壮年世代の馴染みでは、ラジオの人生相談などで活躍された女性画家・融紅鸞（とおるこうらん）（一九〇六～八二）とも関係深い。

道行ナビゲーター　大阪大学教授　**橋爪節也**



大阪大学大学院文学研究科（美術史）　**小野雄希**

本堂の向こうに見える北摂の山並みをも呑みこんだかのような巨大な門。まるで風景を切り取る額縁です。

舞台は阪急梅田駅の南東、扇町通を東にしばらく歩くと右手側に見えてくる太融寺です。弘法大師ゆかりの高野山真言宗のお寺で、弘仁十二（八二一）年にその歴史が始まったとされています。

太平洋戦争によって焼失する前の伽藍を『摂津名所図会』（一七九八年刊）の挿絵にうかがうと、当時の境内は広大で、門から本堂まではかなりの距離があり、参道の左には支柱がある大きな松や石灯籠が、右には「藤波麗しく咲き乱れ」る巨大な藤棚が描かれています。『浪華の賑ひ』（一八五五年刊）も「堂前には藤の棚の茶店」があり、「名におふ浪花の古寺といふべし」と評します。

「浪花百景」の太融寺にもどると、この絵の特徴は、画面の45％を門が占める奇抜で力強い構図です。屋根は瓦葺きで、軒丸瓦には雲や渦のような文様が彫られています。門に掲げられた扁額には、「融」と「寺」の字が見えます。画面左下にある板元（出版元）を表す「石和板」という短冊形は柱にぴったりの位置にあり、参詣者が記念に貼る千社札のようです。門は丹色に塗られ、日光が当たりやすい外側を内側よりもやや薄くすることで立体感が生まれています。

巨大な松と本堂の間からは桜の花が覗いているので、季節は春でしょう。遠景に目を移すと、山は黒く陰り、稜線からは黄から橙色の光が覗いているため、時間帯は夕方のようです。

参道には帯刀した若侍や母娘、老夫婦と思しき人物が描かれ、幅広い世代の憩いの場であったことが伺えます。人物は細く小さく、それだけに門の大きさが際立ちますが、よく見ると一番奥の人の顔に肌色がほどこされていたり、こちらを向いている人物の目鼻が点で描かれていたりと、細部まで描写されています。また身振り手振りからは、それぞれが境内の景色を楽しんでいる様子が伝わってきます。

桜が過ぎると、今度は藤の季節がやってきます。麗しく咲き乱れた様子も見たかったなぁ。茶店で飲むお茶はきっと格別。老若男女が思い思いに時を過ごしたのでしょう。

編集後記

今号で第４号となりました。地域に愛される大淀コミュニティセンター、北区民センターの情報と、この街「キタのまち」の情報が混ざりあった「遠近感のある紙面づくり」を心がけていますが、まだまだの感も否めません。今後はトピック情報などにも挑戦し「キタのまち」の知っているようで知らない「こぼれ話」や「あんなこと・こんな話」もご紹介したいと考えています。ご期待ください。

■編集・発行：北区民センター・大淀コミュニティセンター・都市コミュニティ研究室
■指定管理者：一般財団法人大阪市コミュニティ協会
■発　行　月：7月・10月・1月・4月の各月下旬発行

北区民センター　〒530-8401 大阪市北区扇町2-1-27
✉ kitakumin-center@abelia.ocn.ne.jp
大淀コミュニティセンター　〒531-0074 大阪市北区本庄東3-8-2
✉ oyodo-comini@abelia.ocn.ne.jp